



ご家族・お友達をお誘いのうえ お気軽にご来館ください!

子ども気象講座

「あなたも“気象”博士! ~天気予報はどのように作るの?~」

7月25日(水) 10:30~12:00

講師 静岡地方気象台 技術課予報官 高橋 秀紀 氏

場所 4階視聴覚ホール

内容 天気の仕組み、天気予報の作り方、危険な天気からの身の守り方など

対象 小学生 定員 100人(保護者同伴可)

申込み 7月11日(水) 9:30から電話にて受付 (定員になりしだい締め切り)



夏休みわくわく図書館

8月2日(木) 午前の部 10:00~12:00 / 午後の部 12:30~14:30

場所 4階講座室・視聴覚ホール

内容 ペープサート(ぞくぞく村のちびっこおばけがやってくる!)

おたのしみステージ・ちいさながく・展示の部屋・おはなしクイズラリー

共催 ぬまづ子どもの本を学ぶ会

申込み 当日直接会場へ(先着200人)



夏休み企画展「おはなしの世界と人形たち」

7月27日(金)~8月19日(日) ※月曜日・8月1日(水)は休館

4階展示ホールにて 幼稚園・学校・地域の読み聞かせボランティアによる展示です

8月7日(火)~8月10日(金)の午後2:00~3:30

4階展示ホールでおはなしの会(読み聞かせ)も行います

共催 ぬまづ子どもの本を学ぶ会



ビデオ上映会

場所 4階視聴覚ホール 定員 200人

子ども向け 14:00~

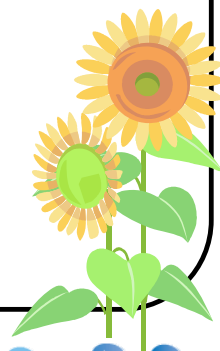
7/31(火) 「みなまた海の声」(40分)・「きたきつねのしあわせ」(15分)

8/7(火) 「世界名作アニメーション裸の王様」(50分)

8/14(火) 「ふたつの胡桃」(45分)・「しまふくろういきる」(15分)

◎広報ぬまづ・館内ポスター・チラシ等もあわせてご覧ください

◎駐車場に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください



図書館カレンダー

平成24年 7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

平成24年 8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

平成24年 9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

休館日

開館時間 火・水・木 午前9時30分~午後6時30分
 金 午前9時30分~午後9時
 土・日・祝日・振替休日 ... 午前9時30分~午後5時

この夏におすすめの本



今回は、比較的若い女性向けの本をご紹介します。
出版されてからずっと人気が高く、多くの方々に読まれている本です。
ミステリ、時代物、恋愛小説など、幅広いジャンルから選びました。

うさぎパン

著者名： 瀧羽 麻子／著
出版社： メディアファクトリー
出版年月： 2007. 8

内容紹介： 新しい学校、年上の友だち、はじめての恋。いろんな人たちとの出会いのなかで、恋について、家族について考え、少しずつ世界を広げていく15歳の優子。そんな彼女に降ってきた、小さなやさしい奇跡とは？

強運の持ち主

著者名： 瀬尾 まいこ／著
出版社： 文藝春秋
出版年月： 2006. 5

内容紹介： 元OLの売れっ子占い師、ルイズ吉田は大忙し！ ある日、物事の終末が見えるという大学生の武田君が現れる。ルイズにもおわりの兆候が見えると言い出して…。表題作ほか3編を収録した連作短編集。

イニシエーション・ラブ

著者名： 乾 くるみ／著
出版社： 原書房
出版年月： 2004. 4

内容紹介： 目次から仕掛けられた大胆な罫、全編にわたる絶妙な伏線、そして最後に明かされる真相…。80'sのほろ苦くてくすぐったい恋愛ドラマはそこですべてがくつつがえり、2度目にはまったく違った物語が見えてくる…。



紅雲町ものがたり

著者名： 吉永 南央／著
出版社： 文藝春秋
出版年月： 2008. 1

内容紹介： 老いても自分の夢にかけた大正生まれのお草は、マンションの一室で虐待が行われていると気づき、ひとり捜索まがいのことを始める。知的で小粋な彼女が、街の噂や事件の先に見た人生の“真実”とは…？

本はともだち⑤

大人になる前にぜひ、読んでおきたい本



今回は、小学校1、2年生向けのよみものをご紹介します。

幼児期に温かい”おひざだっこ”で絵本を楽しんできた子どもたちも、小学生になると机に向かって文字がたくさんの本を読まないでダメかしら…？と、少し負担に思われる親御さんもいらっしゃるのではないのでしょうか。

でも、小学生になったからといって、いきなりひとり読みを無理強いさせないでください。

子どもの成長はあっという間。本を通じての温かな親子のふれあいの時間をまだまだ楽しみましょう。

どれも読み継がれて20年以上の定番のものがたりです。

こひつじクロ

エリザベス・ショー／作・絵 ゆり よう子／訳 岩崎書店

まっしろいひつじのむれのなかで、一ぴきだけ黒くて小さいクロは「しろいひつじになりたい」

いつも思っていました。いうことをきかないクロを売ってしまいたい番犬のポロは、あみもの

好きのおじいさんに何度となくたのみますが、おじいさんには何か考えがあるようです。

まっしろなひつじのむれに一ぴきの黒いひつじ。どんないいことがあるのか、子どもさんと

いっしょに考えてみませんか？



あおい目のこねこ

エゴン・マチーセン／さく・え せた ていじ／やく 福音館書店

ねずみがいっぱいいるねずみの国をさがして、あおい目のこねこが旅をするおはなし。

途中で、あおい目をわらわれたり、正体のわからない大きな目にであったり、なかなかねずみの国にはたどりつけず、旅をあきらめかけてしまいます。けれどもこねこは「おもしろいことをしてみよう。なんにもなくても、げんきでいなくちやいけなもの。」と思うのです。

きいろい目のこねこたちをねらう犬をおっぱらうために、あおい目のこねこがしたことは…？



ばん 番ねずみのヤカちゃん

リチャード・ウィルバー／さく 松岡 享子／やく 大社 玲子／え 福音館書店

声の大きなねずみのヤカちゃんは、台所のチーズを食べようとねらっています。

おかあさんねずみからおそわれた、自分でたべものを見つけ、自分でくらすためのいっつけをヤカちゃんもまもりませんが、声だけはどうしても小さくすることができません。そのためにねずみとりをしかけられたり、ねこを飼われたりしてしまいますが、ある晩おもいもよらない侵入者が！



みどりいろのたね

たかどの ほうこ／作 太田 大八／絵 福音館書店

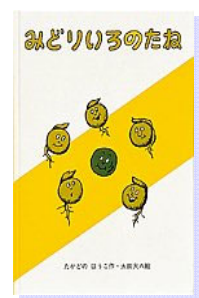
たねまきの時間にあめ玉をなめていたまあちゃんは、ついうっかりみどりのたねといっしょに、

みどりいろのあめ玉もはたけにまいてしまいます。でも、なまけものまあちゃんがちっとも

お水をあげないので、たねたちはおおよわり。たったひとり、へいきのへのかつぱのあめ玉と、

たねたちのけんかがはじまってしまいます。やがてみをつけたまあちゃんのえんどうまめは、

なんだかぴかぴかひかいて…。ユーモラスなさし絵が楽しい1冊です。



花火について調べてみました!

～レファレンスコーナー～

今年も夏がやってきました。夏といわれると夏休み、お盆、花火大会などいろいろな行事がありますが、今回は、このなかで花火について調べてみました。

火薬の登場

花火の原型には、古くから信号として用いられてきた“のろし”がありますが、花火の登場は、11世紀の黒色火薬の発明以後のことになります。そして、この黒色火薬が世界に広まったのは15世紀ごろになります。当然、黒色火薬なので爆竹やねずみ花火のようなものでした。

明治時代になるとそれが次第に色とりどりの現在の花火に近いものになっていきました。

日本での花火の歴史

日本に初めて花火が持ち込まれたのは、いくつか説がありますが、天正年間(1573～92)にポルトガル人がオランダ人によるものといわれていますがはっきりしていません。記録によれば1613年に明国の商人がイギリス人とともに駿府にいた徳川家康のもとにやってきたときに、同行した明人の花火をみせたというのが最初だといわれています。このときの花火は、筒に火薬をいれ上に向かって吹き上げる手筒花火のようなものだったそうです。

現在の花火大会で使われる打ち上げ花火が登場するのは、江戸時代になってからといわれています。

外国での花火は・・

日本では花火の玉が丸いのに対して、ヨーロッパなどの花火の玉は円錐形をしています。花火も日本のものが丸く広がるのに対して、ヨーロッパでは円錐形をしているので中身を放出するように花火は広がってゆくそうです。

沼津でも「狩野川花火大会」が7月下旬に開催されます。みなさんも花火の歴史を思い起こしながら、花火大会を楽しまれたらいかがでしょうか。

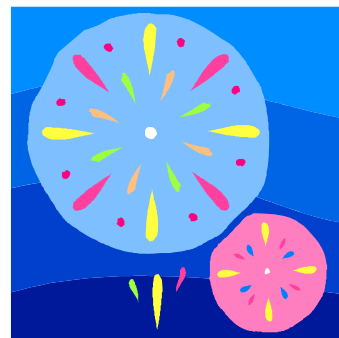
このような、調べ物のお手伝いをするサービスのことを図書館ではレファレンスサービスといいます。

図書館では、本の貸出・返却以外にもこのようなサービスも行っていますのでご利用ください。

※参考文献

清水武夫 著『花火の話』 有限会社リーブル

細谷政夫・細谷文夫著『花火の科学』 東海大学出版会



図書館からのお願い

図書館の本はみんなのものです。本の書き込みや切りとりは、絶対にやめてください。他の利用者の迷惑になります。

